

視察研修報告書

【委員会名】 広報広聴特別委員会

1. 日程

令和7年2月18日(火) 午後2時～午後4時

2. 視察先及び視察事項

神奈川県開成町

研修会場 神奈川県開成町役場会議室

3. 参加者 7名

委員長 滝ノ上 万記 副委員長 表具 弘

委員 藤本 憲一、溝北 好一、羽根 祥起

議長 松岡 宏行

事務局 江口 美香(議会事務局局長補佐)



挨拶する滝ノ上委員長

4. 視察対応者

《開成町議会》 議長 山本 研一

議会運営委員会委員長 武井 正広

広報広聴常任委員会委員長 星野 洋一

教育民生常任委員会委員長 井上 慎司

議員 寺野 圭一郎

《事務局》 書記 佐藤 久子



歓迎の挨拶をする開成町議会の皆さま

5. 視察先の概要

開成町は、神奈川県西部の足柄上地区中央部に位置し、東京から70km圏内、横浜からも50kmの距離にあり、町域は東西1.7km、南北3.8km、総面積6.55km²と県内で一番面積が小さな町です。また、町の東には酒匂川が流れ、西には箱根外輪山、南には相模湾、北には丹沢山塊を望むなど、自然に恵まれたなだらかな平坦地です。

《議会改革の取り組み》

- ①通年の会期制
- ②日曜議会
- ③議会 ICT 化の推進
- ④議会映像インターネット配信
- ⑤議会報告会
- ⑥議場を自習室として一般開放
- ⑦議会広報改革

6. 視察の内容

- ① 広報広聴の取り組みについて
- ② 議会報告会について
- ③ 映像配信や SNS 等の活用について



広報広聴の取り組みについて説明を受ける

《主な質問事項》

1. 議会ホームページの独立により、住民の反応はどうか。(閲覧数の変化等)
(回答)議会ホームページを見たという声が多く届くようになりました。「インパクトがある」や「大胆で驚いた」など様々なご意見をいただいています。
2. 一般質問動画の編集等作成における詳細内容を教えていただきたい。
(回答)撮影については議員間で実施し、編集に際しては事務局で行っています。一般質問通告日に撮影し、4日後には議長、副議長及び広報広聴特別委員会正副委員長で、事務局が作成した動画をチェックしています。

3. 見てもらえるホームページづくりにおける詳細内容を教えていただきたい。

(回答) トップページは、ムービーや静止画で旬の情報を伝えています。トップページは毎月更新し、飽きないウェブサイトを実現しています。

4. 議会ホームページ編集にかかる事務局職員と議員との役割分担はどうか。

(回答) 記事、撮影については議員と事務局で実施しています。編集については事務局。デザイン等に際しては委託した業者で行っています。

5. ジチタイワークス掲載記事で「大切なのは、自分たちが行っていることが時代に合っているかを見極めること。そして合わなくなったものはやめる勇気をもつこと」について、委員会で具体的に取組まれた実績があればお教えいただきたい。

(回答) 自治体ワークスの記事は事務局職員のインタビューです。事務局から、「紙」の議会だよりは、若い世代向けには届いていない実態と新聞さえ昨日の記事が掲載されており、議員もSNSで即時情報を受け取っている。

紙の議会だよりは生き残れない時代が来ると思われるので、議会ウェブサイトを立て上げ、短い動画で議会活動を発信し、そして、その後の未来としてウェブサイトも見られなくなる新たな時代がやってくる」と議員に伝えました。

委員会の実績というご質問にすぐわかない可能性がありますが、今までの議会広報紙面を削減していることなどが回答になると思います。



開成町議員に質問する広報広聴特別委員と議長

7. 考察(委員の所感等)

【滝ノ上万記 委員長】

○研修を受けての所感

開成町議会は、「町民に開かれた議会」の実現を目指し、積極的な議会改革に取り組んでいる。主な取り組みとして、以下のような施策がある。

- ①議会ウェブサイトの開設と動画配信:令和4年9月、県内町村で初となる議会独自のウェブサイトを開設した。そこでは、一般質問の概要を20秒の動画で配信し、町民に分かりやすく情報を伝えている。
- ②日曜議会の開催と託児サービス:平日に議会を傍聴できない町民のため、日曜議会を定期的で開催している。令和5年6月の開催時には、90人の傍聴者が集まった。加えてその際には無料託児サービスも提供した。
- ③議場の一般開放と教育活用:夏休み期間中、議場を自習室として一般開放し、町民が自由に利用できる環境を整えている。また、町内の幼稚園や小中学校の授業を議場で実施し、子どもたちに議会を身近に感じてもらう取り組みも行っている。

④ICT 化の推進:令和 2 年 12 月から、議員にタブレット端末を配布し、議案資料のペーパーレス化を実現した。

⑤さらに、令和 3 年 6 月からは議会のライブ映像および録画映像のインターネット配信を開始し、町民がいつでも議会の様子を視聴できるようになっている。

これらの取り組みにより、開成町議会は全国的にも注目を集め、令和 5 年には第 18 回マニフェスト大賞の議会改革賞を受賞した。

強く印象に残ったのは「議会改革といわれますが、私たちが取り組んだのは広報改革です」という説明をされた議会事務局職員の話である。事前に配布された資料にも書かれている通り、担当職員の 1 人が令和 3 年に議会事務局へ異動してきたの初仕事は、「議会だよりの校正」であった。すなわち「白黒で文字だらけの議会だよりを読む人がいるのかと疑問に感じ、早速、次の号からリニューアルに着手。議会の旬の情報を載せる、表紙や裏表紙までスペースを有効活用する、子どもモデルを起用する、カラーにする」などいくつかの改善策を反映させたのである。

そして次に提案したのは「観てもらえる WEB サイトの制作」である。「議会だよりは制作から発行までにタイムラグがあるので、これからの議会広報は WEB と両輪でやるべきだと考えました」とのことで、「目指したのは、日本一の WEB サイト。そのためには SE のやる気が必要ですから、制作については一任していて、上がってきたものに NO と言ったことはありません。トップのムービーに関して、「SE になってから一番やりたかったことをやってください」とだけ注文しました。」とのことである。

以上のことから、開成町の広報広聴の改革において、何よりもこの議会事務局職員の思いや広報に関するセンスが非常に重要な役割を果たしたように感じる。さらにそれを議員全員で受け入れて、町民に町政について興味を持ってもらいたい、HP や動画を観てもらいたい、そのためにはどうしたらよいかということについて試行錯誤した結果、年間 40 以上もの市町村から視察が来るまでの広報広聴の取り組みになったのではないだろうか。

○本町に照らした所見

かつらぎ町議会の広報広聴の重要な役割を担っている議会広報誌「かけはし」は議会だより編集特別委員会のメンバーの熱心な取り組みにより、今や全国町村議長会の表彰を受ける(令和6年度は応募のあった全国の311町村の中で第5位に選ばれる)までに至っている。

一方、今回の視察で説明をして下さった議員の話の中で強く印象に残ったのが、「議会の広報において重要なことは、議会の旬の情報を町民に届けることが重要である」という話である。その手段として全国ほとどの町村でも作成配布している従来の議会だよりの作成を中止し、1枚もののタブロイド判の広報誌に切り替えたということであった。さらに例えば開成町議会独自のホームページも作成し、本会議前には一般質問をする議員の質問の概要を20秒の動画にまとめたものを、一般質問終了後には「質問直後 突撃インタビュー」として質問した議員の手ごたえや感想などの動画を作成、公開することで、時間差の少ない広報に取り組まれている。

よって本町においてもやはり、旬の情報を町民に届けることが必要であると思われるため、議会広報誌の今後の在り方や広報全般について議会だより編集特別委員会と議論をする必要があるのではないだろうか。

これまで他市町の先進的な施策を学ぶため、他市町村の視察を行い、実際にそれらの施策に取り組んでおられる方々の声や話を聞かせて頂くと、中には財政的な問題や人口規模、地域情勢などの理由により、本町で取り組むことが困難な事例というものも少なからずある。だが今回の開成町の広報広聴活動を良いと思いい、是非本町においても同様の取り組みをしてみようとなった場合、必要なことは各議員がやる気になるかどうかだけではないだろうか、と思わされる内容であった。

【表具 弘 副委員長】

○研修を受けての所感

開成町職員である佐藤さん、彼女のオモイがこの開成町の「ギカイだより改革」が正に始まっている。「日本一を目指すには、他市町村の紙ベースなど見る必要もない」と言い切る姿勢に並々ならぬ決意を感じ取れた。そのオモイに全ての議員が賛同、その成果が議会だよりや議会独自のウェブサイト開設に繋がっ

ている。

○本町に照らした所見

我々かつらぎ町議会として「何をを目指すのか」議論を重ねる必要がある。同じような議会独自のウェブサイトを作成しても受け入れられる可能性は低いと考える。恐らく開成町議会がここまで出来ることは、過去から現在に至るまでの住民と議会との繋がり=選挙が関係していると思う。開成町の過去の選挙状況を確認してみた。

選挙日時	投票率	定数/候補者数	平均年齢
2023年4月23日	50.19%	12/13	54.76
2019年4月21日	64.04%	12/13	60.76
2015年4月26日	68.2%	12/15	60.86

かつらぎ町

選挙日時	投票率	定数/候補者数	平均年齢
2022年7月24日	59.95%	13/14	63.85
2018年7月22日	62.63%	14/15	63.06
2014年7月13日	74.16%	14/17	55.82

少ないサンプルであるが、平均年齢部分を注目したい。

開成町とかつらぎ町議員構成(選挙立候補者を含む)と最終選挙から見えてくるのは、開成町議会は「成り手不足」には見えない。理由は平均年齢が50代であり、委員会での職業を聞くと大半が「自営業者」。一方かつらぎ町議会の平均年齢は60代を超えており且つ、定年退職後議員になっている人が多い。

開成町は年々平均年齢が下がっているが、かつらぎ町は年々上がっている。

つまり今の開成町は「ギカイだより」「議会ウェブサイト」の変革を受け入れられる土壌が既に形成されていたとデータから推測される。更に高齢化率も調べてみると

開成町(25%)2022年 vs かつらぎ町(40.32%)2020年

開成町はかつらぎ町より2年後のデータであっても僅か25%、2025年データでは、既にかつらぎ町は40.32%。開成町は2022年時点で神奈川県において「神奈川県内で若いまち」(神奈川県平均25.8%)と言われていた。

データからも開成町と分かるように同じようなことをすべきでは無い。広報

広聴委員会として「何をすべき」か考え自分たちで出来る事、「身の丈に合ったこと」を改選後にすべきと思う。現状各議員が携帯やタブレットを駆使して議会独自に SNS 発信が出来ることは困難であり、その部分を事務局でカバーするのは不可能でありすべきでは無い。次回選挙時には一番若い議員でも50代、50代が考えることを20代や30代には合わないことは明白。広報広聴委員会として今できることは「広聴」であって、広報ではない。「広聴」は自分たちが汗を流せばできること、対話を重ねる姿を自分の支援者だけでなく「広く住民に意見を聴く」、これしかない。

【藤本憲一 委員】

○研修を受けての所感

第一印象は、コンパクトな町であり都心への便も良く若者の町であることだった。若者の町ということで、行政に関心がない事から町民に読んでもらう広報誌より動画で発信するという発想転換には感心した。若者は、読むより見る事になれている所をうまく利用したことに、改めて議員及び事務局の斬新さに感銘させられた。

町民に議会活動を理解してもらうため、日曜議会を年一回開催(6月会議の一般質問)している。町民に、議会活動を知ってもらい興味を持ってもらうという事から始めた、約20年続けていることにも驚かされた。本町にとっても、参考になる事項が多数あったという思いで、有意義な視察研修であった。

○本町に照らした所見

日曜議会は、全議員が30分の一般質問を行うとの事であり、事前通告書を議員で審査し、町民に興味ある内容で多くの傍聴者に来てもらう工夫をしている手法は参考になった。本町も日曜議会を検討する必要があると思う。

動画による議員紹介、一般質問内容、質問後の感想等、すべて動画配信している、本町も取り組むべき課題だと感じた。読んでもらう広報誌も大事ではあるが、今の時代動画による広報、すごく参考になったし見習うべきである。

通年議会については、過密日程にならない工夫をしていた。委員会を午前、午後で開催し、効率性を重視した日程にしている点も参考にすべきと、議会運営委員会に進言したい。

【溝北好一 委員】

○研修を受けての所感

神奈川県開成町は創立 70 年県下で一番小さな町 1.7km×3.8km のコンパクトシティ山無し海無しの東京まで 70km、風光の良い若者主体の毎年人口が増す都市である。

出迎えわずか 30 分程度で我が町をコンパクトに纏めた PR 動画を作成披露頂き議会の DX 活動、紙なし議会にまず感服した。

本年全国から 46 市町村が視察に訪れる、最優秀町である。議長他議運委員長・広報委員長以下最良のスタッフであり、しかも町の説明にも表現力にも素晴らしい議員集団と感じた。駅を降り立ち一番感じたのは町全体にゴミが全くない綺麗な町。町民全員が美化ゴミ拾いに自主的な町であり、町民が全員綺麗な町づくりに徹している。

平成 2 年人口 12,000 人弱の町が、現在 19,000 人の町として増え続けている町。

何が魅力かと感じた。町民の町づくりに若者が自然に参画できる理想的な町は何か？

行政の報告会より議会報告会が町民に優先している。

報告会は 19 自治会個別に全会網羅し、課題を一般質問化している。

町民に町の行事(執行部・議会)を全て HP 上に克明に表示している点。まさに行政と町民が同一線上で日々運営していると感じた。

新庁舎はコンパクトであり職員 110 名課別デスクはフリー化。議場は多目的使用ができ本当に理想的。無論紙無 DX に進んだ理想の町。

○本町に照らした所見

自治会単位 20 カ所程度の議会報告会が開催理想的(自治会単位は動員・責任が有す)

DX に向けては、基本的な目的の共有が要。(単なるペーパーレスでない)

広報含む更なるスピード化の為に(現在の議会進行に標準)過去を報告しない工夫。

町とのあらゆる行事の共同発信(町民に知らせめ知って頂く工夫)

もっと住民に近づく工夫(若者を巻き込む為。照れない捕らわれない表現)

【羽根委員】

○研修を受けての所感

開成町議会のテーマである、change(変革)& reform(改革)の取り組みは、他町村ではまねのできないような事が多々あり、住民の方から「議会・議員」は何をしているのか解らないという声が届く、「議会だより」により住民の方に伝えていますが、こうした方法を見直し「情報を迅速」に届けたいという思いで、議会活動で長い文字で発信するのではなく議員の言葉で発信したいという思いから「読む広報」から見る「広報」への変革を始めたようです。長い文章より要点をまとめて短く表現すると言うのは解りやすいと思います、最後に凄く見習うべき事が多い研修だったと思います。

○本町に照らした所見

本町は枠組み・型にこだわりすぎて硬いような気がします、肩の力を抜いリラックスして活動すればいいと思います、それと今、わが街で何をすべきか・必要か見極め無駄なことは「止める勇気」を持つことが大事!!。参考に、「住民の住民による住民のための政治」を忘れないのが開成町かもしれません!?

